



J C H O  
二本松病院

二本松市成田町1-553  
TEL.0243-23-1231  
FAX.0243-23-5086  
<http://nihonmatsu.jcho.go.jp>  
発行者: あゆみ編集委員会

## 《平成28年JCHO二本松病院運営方針》

当院(地域医療機能推進機構二本松病院)は、一昨年4月に経営母体および名称が変更となりリニューアルいたしました。その後、2年が経過いたしました。地域の皆様の応援やご協力をいただきまして、ここ2年間は順調な運営ができましたことを、改めて御礼申し上げます。

さて当院では、以下の病院理念を定めております。

わたしたちは、地域の皆様に安心を提供するため、保健、医療、福祉の向上に努めます。

さらに、その理念に基づいて、5つの病院方針を掲げております。

1. 医療の安全性を確保します。
2. 良質で満足の行く医療を提供します。
3. 患者様の権利を尊重します。
4. 安心できる開かれた病院を目指します。
5. 保健予防活動に関する啓発活動を行います。

その方針を実現するために本年度の病院目標を設定いたしました。

- 「JCHO職員として意識向上に努め、健全な経営基盤を確立する。」
- 「現在の診療機能をさらに充実させ、安全で良質な医療を提供する。」
- 「病院と附属施設等の相互理解により、一体的な運営を推進する。」
- 「地域の関係機関と連携を図り、地域包括ケアの推進に取り組む。」
- 「明るく働きやすい職場を目指して、環境整備に努める。」

職員一人一人が高い意識を持ち、職務に打ち込むことにより、病院機能をより高く維持し、安全で良質な医療を提供してまいります。また附属老健施設や訪問看護および訪問リハビリステーションと一体となって、地域の皆様に医療のみではなく介護や福祉を包括したケアを継続的にお届けしてまいります。そのことによって、地域の皆様の安心につながり、病院への信頼をますます頂戴できるように努めてまいります。

日本の他の地域と同様に、安達地区でも老年人口が今後急速に増加することが見込まれています。歳をとり高齢者となっても地域に根ざした生活を不安なく送ることができる。そのためのお役に立つことが、病院の果たす一つの役割であると考えております。今後ともご理解とご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

副院長 柳沼 健之

フレッシュな新人です！  
早く名前と顔を  
覚えてくださいね！

## 新人紹介

二本松病院に就職を希望した決め手は、就職セミナーで出会った「佐藤総看護師長の笑顔」と「二本松市という魅力」に惹かれたからです。職場の諸先輩方や、病院を利用される患者さん、地域の皆さんとの笑顔に支えられて一ヶ月が過ぎました。つまり、就職を希望したときに感じた病院の魅力は、まさにその通りであったなあと感じています。

病棟に配属され、看護師養成学校で勉強した知識だけの私を、実践の場において一から指導してくださる職場の先輩方に感謝の気持ちでいっぱい毎日です。適切な看護を提供することで、恩返しをしなければと気持ちは焦りますが、まだまだ空回りの日々です。笑顔を忘れず趣味のドライブなどで休日フレッシュしながら、一日でも早く一人前の看護師になれるよう努めていきます。

4階病棟 看護師  
長澤 園子



中学から高校までの学生時代は、ラグビー部に所属していました。ラグビーは1チーム、15人で構成されるためチームワークが重要です。ラグビーで学んだチームワークや個人の役割を果たすことの大切さをしっかりと生かし元気よく働いていきたいと思えます。また施設を利用している方に対して、どのような理由で施設を利用しているのか考え、できるだけ改善できるように理学療法を行っていきたくて考えています。さらに多職種の方との連絡を密に行い、利用者の方を多方面から考えた上でどのような関わり方を行っていくか決めていきたいと思えます。山形から引っ越して少し慣れてきましたが社会人1年目で分からないことだらけです。早く仕事を覚え利用者の方の力になれるように頑張っていきます。

附属老健 理学療法士  
推名 翔太



仙台青葉学院短期大学を卒業し、今年の4月からJCHO二本松病院に就職しました。出身地は宮城県の塩釜市です。福島に住むのは初めてなので、慣れない土地で社会人1年目をスタートすることは不安でした。しかし先輩方が優しく接してくれるおかげもあり、日々不安な気持ちはなくなっています。楽しい雰囲気の中、良い緊張感を持ちつつ、スタッフの一員として一日でも早く、病院の力になりたいと思っております。

また、地域の人々の力になっていくためにも日々の勉強を忘れずに、一生懸命頑張ります。皆さんのアドバイスを活かしながら早く患者さんの名前を覚え、相手の気持ちに寄りそいながら焦らずゆっくり頑張っていきます。

理学療法士  
内海 洋亮



二本松は祖父の故郷で小さいころからお墓参りに来ていました。帰りには和菓子屋の「丹波屋」で砂糖がたっぷりまぶしてある「あんぱん」をよく買ってもらっていました。二本松は美味しい和菓子がたくさんあって玉羊羹も好きです。

理学療法士を目指すきっかけとなったのは、高校生の時にバドミントンで膝の靭帯を損傷したことです。その時に理学療法士の方から励ましの言葉をかけてもらい「自分も誰かを支えたい!」と思いました。仕事はまだ始まったばかりで分からないことや気が利かないところがたくさんあると思いますが、1日でも早く患者さんの助けになれるようになりたいです。

理学療法士  
丹野 萌



## 着任いたしました!

4月1日の人事異動で事務長を拝命いたしました、大類でございます。前任地は秋田県由利本荘市にある国立病院機構あきた病院で、これまで岩手県を除く東北5県12市町で勤務して参りました。

JCHOの病院は経験がなく、二本松市も初めて住むことになり多少不安もありますが、これから多くのことを学び、JCHOになって3年目を迎えた二本松病院が地域の中核病院として地元に着き、基本理念である「保健、医療、福祉の向上」の実践のため皆様とともに努力してまいりますので、ご協力とご指導の程よろしくお願いたします。

私の出身地は山形県尾花沢市です。私のふるさについてご紹介したいと思います。「雪とスイカと花笠のまち」が尾花沢を象徴しています。日本三雪と言われる豪雪地で、雪による豊かな水と盆地の寒暖の差がスイカに最適で、尾花沢スイカのブランドで全国に出荷されています。

花笠音頭は大正時代に徳良湖を造成中の作業員が笠を廻して歌ったのが原型と聞いています。8月27日・28日に尾花沢花笠祭りが開催されます。

また、松尾芭蕉が10泊の長期滞在し「涼しさをわが宿にしてねまる也」の句を詠んだ鈴木清風邸は市の中心部にあります。

市街地から西に10数キロ行くと木造三層の旅館が軒を並べた「銀山温泉」に着きます。大正ロマン漂う湯の町として人気の観光スポットです。近くには銀の廃坑があり夏でも涼しく避暑には最適です。

二本松からは新幹線、自家用車とも3時間くらいで行けますので、これからの季節訪れてみてはいかがでしょうか。

事務長 大類 靖



安田副総看護師長の後任として秋田病院から参りました佐野淳子と申します。秋田県外で暮らしたことのない私は、「美人を育てる」はずだった(!?)秋田米を食べ続け、その効果を証明できないまま、突然の辞令を受けて、二本松病院へ配属となりました。

自分の立場と役割の大きさに困惑し、不安でいっぱいの私でしたが、「二本松病院の人たちは、あったかいよ。」と前任者からの申し送りどおり、六角院長はじめ佐藤総看護師長、職員の方々にあたたかく受け入れていただき、あっという間にひと月が過ぎました。

秋田病院では、手術室以外ほとんどの科を経験しここ5年間は老健勤務でしたので、二本松病院では、どのようなシステムで稼働しているのか興味津々でした。管理者のビジョンが病院および老健の職員全体に浸透しており、一丸となった工夫と努力の結果と知り、とても新鮮な驚きを覚えました。どんな状況においても諦めず解決の道を探る努力の大切さを改めて実感しています。長く同じ組織に身を置いていると見えなかったものが、違う組織を経験することでお互いに学びあえることが人事異動の効果と捉え、微力ながらも役割を果たせるよう努力

していきたくて思っております。

子供も社会人となり、要介護状態の両親を夫に託して単身赴任。心配の種は尽きませんが、生来のポジティブ精神が災い(?)ここまで来てしまいました。しかし初めての一人暮らしは、なかなか新鮮で、ペットのシマリスと女子大生のような部屋で二本松の生活を楽しんでいます。安達太良山、磐梯山など魅力的な山々も多く趣味の登山もできたらと、密かに狙っています。

副総看護師長 佐野 淳子



# 附属老健 ボランティア 委員会



## 「合戦場のしだれ桜」を見学しました!

利用者の皆さんに「生活にうるおいと、季節を感じていただくため」にお花見を実施してきました。今年の桜前線は昨年にも増して早く届いてしまったようで、予定の「お花見」に桜が散ってしまうのではないかとやきもきしましたが、満開の桜を見ることができました。

4月12日(3階フロア利用者様)と4月14日(2階フロア利用者様)に実施してきました。施設周辺の桜は散ってしまったので、少し足を延ばして「合戦場のしだれ桜」を見に行ってきました。一日目は雲ひとつ無いとても良い天気恵まれました。二日目は、前日に降った雨が花びらにしみている感じがおり、それはそれで普段とは違った趣が感じられました。車窓から眺めると遠くに桜、近くに水仙やチューリップ、芝桜の花が見え、利用者さんと職員で会話もはずみあつという間に着きました。

「合戦場のしだれ桜」は「三春の滝桜」の孫桜と言われ2本の紅しだれ桜で、推定樹齢は約百七十年と

言われております。初めて見る方も多く、その優雅さにびっくりしたり、感激したりしておりました。持参した団子を食べながら「やっぱり花もいいけど団子だね。」「おらのところにも有名で見事な桜はあるが、若い時には働く一方で桜を眺める余裕など無かった。今は良い世の中だ。」と話されながら、昔を思い出していました。普段見られない、生き生きとした笑顔が見られて嬉しかったです。帰りは眺めの良い高台を通って来たので、遠くに安達太良山を見ることができました。

施設に着くなり、利用者の皆さんが「良かった。」「良かった。」「また行きたい。」と喜んでくださいました。

ご利用いただく皆さんに笑顔になっていただくために、これからもいろいろな行事を行っていきます。

附属老健サービス向上委員会  
委員長 佐藤 薫



### 編集後記

先日、県立美術館で開催された「フェルメールとレンブラント展」に行ってきました。17世紀オランダ絵画の名作を鑑賞し、特別な時間を過ごすことができました。光のフェルメールと称される巨匠の作品《水差しを持つ女》は、思っていたより小さな絵でしたが、窓から差し込む光が鮮明に感じられ、水差しの皿に映り込んだタペストリー柄に、つい顔を近づけて見入ってしまいました。素晴らしい作品ばかりで、あっという間に時間が過ぎ、心が洗われました。みなさんも、日常から離れて美術館へ出掛けるのもよいですよ。

N・Y記